

認知症を描いた2本の映画上映会

「痴呆性老人の世界」 10:00~

1986年/84分/監督・脚本：羽田澄子 製作：河上裕久 撮影：西尾清 照明：藤来義門、久保賀作 ナレーション：斉藤季夫

ある施設に収容されている痴呆性老人たちの姿を通して、痴呆とは何か、痴呆性老人とはどのような人々で、どの様な対処をするべきかを描いたドキュメンタリー映画の傑作として絶賛されている作品。'85年度キネマ旬報・文化映画ベスト・ワンとなったため、岩波ホールで一般公開された。

羽田 澄子監督



映画監督。1926年、旧満州大連市生まれ。1950年、恩師・羽仁説子の紹介で岩波映画製作所に入社、映画シナリオを任される。羽仁進監督の下で、助監督を務めた後、1957年に『村の婦人学級』（岩波映画）で監督デビュー。1977年『薄墨の桜』を4年間かけ自主制作。1980年岩波映画製作所を定年退職する。在職中の作品は80本あまり。以後フリーとなり、夫であるプロデューサー工藤充が率いるドキュメンタリー映画製作会社・自由工房で活躍。伝統芸能・福祉・美術・近代史といった様々なジャンルの記録映画に携わっている。1982年『早池峰の賦』制作するなど、ドキュメンタリー映画界を代表する作家である。

保坂延彦監督・脚本作品 「そうかもしれない」 12:30~

2005年/106分/出演：雪村いづみ、桂春團治、阿藤快、下條アトム、夏木陽介、烏丸せつこ



芸術選奨文部大臣賞を受賞した私小説作家・耕治人の「命終」三部作の映画化。文筆家の高山治と妻ヨシ子は、平穏な毎日を過ごすごく普通の老夫婦。しかし、ある日突然、ヨシ子が認知症になってしまう。治は少しずつ自分を見失っていく妻を見守ることしかできないでいた。やがて、彼もガンであることが発覚し、2人は特別養護老人ホームと病院で別々に暮らすことになる。昨年11月に急逝した俳優・阿藤快さん、また今年1月死去した戦後上方落語の四天王と呼ばれた桂春団治さんが共演している。



来仙決定

保坂 延彦監督

映画監督・脚本家。1945年、山梨県生まれ、明治大学文学部卒。映画監督の羽仁進のもとで1980年の『アフリカ物語』にて監督補佐と編集を担当。自身の監督作品は、水上勉原作の『父と子』、重兼芳子原作の『愛しき日々よ』、伊丹万作のリメイク『国士無双』など。そのほかNHKを中心にスペシャル番組やアニメ番組を数多く手掛ける。

参加者の皆さまと対話しながら、保坂延彦監督の映画「そうかもしれない」製作の経緯や、撮影秘話などを交えたシネマトークあり。

とき 4月21日 (木) 1作品 500円 ・桜井薬局セントラルホールで発売

会場 仙台市市民活動サポートセンター
仙台市青葉区一番町四丁目1-3 地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ 市営バス「商工会議所前」徒歩3分

主催・問合せ：右岸の羊座シネマテーク 070-5323-1939

ニセが勝つか？
ホンモノが勝つか？



参考試写 保坂延彦監督

こくしむそう 国士無双

1986年/105分/監督：保坂延彦、脚本：菊島隆三、音楽：喜多嶋修、出演：中井貴一、原田美枝子、火野正平、笠智衆、江波杏子、中村嘉葎雄、フランキー堺ほか

剣を執っては天下随一、将軍家御指南番、伊勢伊勢守の偽物が現れた。天下一の国士無双が、素性も知れぬ偽物に敗れてしまうという面白さを描いたこの作品は、昭和7年公開・伊丹万作監督作品のリメイク版。

*オリジナル・伊丹万作監督版「国士無双」も一部分上映

保坂延彦監督自らがひもとく

第一回 映画塾

「国士無双」のシナリオと映像

映画監督・脚本家。1945年、山梨生まれ。明治大学文学部卒。映画監督羽仁進のもとで1980年「アフリカ物語」にて監督補佐と編集を担当。自身の監督作品は、水上勉原作「父と子」、重兼芳子原作「愛しき日々よ」、認知症をテーマに描いた耕治人原作「そうかもしれない」。

映画「そうかもしれない」は4/23（土）～29（金・祝）の1週間、「桜井薬局セントラルホール」（TEL 022-263-7868）で上映します！

4/29（祝） 10：30（10：00 開場）

入場料

一般 1,200円
映画村会員 800円

仙台市市民活動サポートセンター

仙台市青葉区一番町4-1-3 地下鉄南北線「広瀬通駅」西5番出口すぐ 市営バス「商工会議所前」徒歩3分

主催・問合せ：せんだい映画村 070-5323-1939 大石まで

映画塾
開講

天下にふたりの
伊勢守、これは困
った！

